

ネットワーク仙台

No.72

【目次】

1	会員団体の活動の様子を紹介します！	
①	特定非営利活動法人あんよ	1
②	傾聴ボランティアサークル梨～風	2
2	県協議会主催の研修会に参加しました！	
	～みやぎ地域づくり団体協議会レポート～	4
3	事務局からのお知らせ	5
①	全国協議会助成事業の募集が開始されました	
②	その他のお知らせ	
4	編集後記	6

1 会員団体の活動の様子を紹介します！

① 特定非営利活動法人あんよ / 仙台市、川崎町

▶令和7年度新規加入団体

● 特定非営利活動法人あんよ とは

特定非営利活動法人あんよは、幅広い能力の子どもたちが安心して活動できる環境をつくり、健全育成と地域活性化に寄与することを目的に設立された団体です。スクール活動やスポーツイベントなど、子どもたちが多様な感性を育む場づくりに取り組むほか、地域の課題に寄り添いながら、学校教育以外の学びや経験の機会を広げる活動を続けています。

● ACTIVITIES：廃校を活用したスポーツ活動

あんよが力を入れているのが、川崎町の廃校を活用したスポーツ支援活動です。

毎週木曜日には、19時半から21時の時間で体育館を利用した野球スクールを実施しており、中学生を中心に地元の子どもたちに参加してもらっています。地域には習い事の選択肢が少なく、

部活動の時間も限られる中、「思い切り体を動かせる場・練習ができる場」を子どもたちに提供したいという想いで取り組んでいます。スクールは会費制ではなく、1回500円の参加費制を採用。子どもたちにとって、義務感ではなく“楽しいから行きたい”と思える環境を大切にしたいと考えています。また体育館は、メンバーが個々の繋がりの中で橋渡し役を務め、ミニバスの練習試合会場としても使われています。



なぜ廃校を使っているのか、その理由は母校への想いにあります。川崎町出身のメンバーが通っていた小学校が数年前に閉校となりました。思い出の詰まった学校を「廃校」のままにしたいという想いをきっかけとして、校舎や体育館を活用して何かできないか考えるようになりました。



現在は、場所を使い続けることそのものが地域の価値につながっていくと考えており、スポーツ活動以外にも、野球スクールに参加する子どもたちを対象としたハロウィンイベントの開催や、ミニバスの応援に来た保護者向けの野菜の無人販売・手づくりストラップの販売会など、少しずつ廃校利用の可能性を探っています。

● Vision：廃校利用の可能性

今後は、野球スクールの質向上と継続を最優先にしつつ、廃校の校舎部分の新たな活用にも挑戦したいと考えています。例えば、図書室の開放や多目的ホールを活用したイベント開催など、スポーツに限らず多様な活動ができる拠点づくりを構想しています。

一方、アイデアを形にするための時間確保や資金面の工夫など、課題もあります。それでも「廃校を活かした新しい“しかけ”をつくり続けたい」という想いをもって、地域の子どもの笑顔を支える活動をこれからも続けていきたいです。

② 傾聴ボランティアサークル梨～風 / 利府町

▶令和7年度地域づくり団体活動支援助成金 活用団体

● 傾聴ボランティアサークル梨～風 とは

傾聴ボランティアサークル梨～風は、相手の気持ちに寄り添いながら丁寧に話を聴く「傾聴」の活動に重きを置いて活動している団体です。東日本大震災後の被災地で人々の声に耳を傾ける体験を通し、当事者の心に前向きな気持ちが生まれることを体感したことをきっかけに、2014年に傾聴ボランティア養成講座修了者の有志5名で発足し、「利府の特産である梨の木の葉の間に吹くそよ風のように」という想いをこめて“梨～風”と名付けました。

● ACTIVITIES：普段の傾聴活動について

傾聴ボランティアサークル梨～風の主な活動は、高齢者施設やグループホームなどを訪問し、利用者の話をゆっくりと丁寧に聴く傾聴活動です。歌や昔遊び、パズルなどをきっかけに会話を広げ、自然な形で気持ちを引き出す工夫も行っています。また、傾聴に関する講座や手作り講座（ワークショップ）など、地域住民の方々を対象としたイベントも開催しており、地域の交流を深めながら傾聴について知ってもらう場の提供にも取り組んでいます。

月1回の定例会では、活動の振り返りやロールプレイングなどを通して、聴き方の技術を磨いています。講座開催や近隣団体との交流を通じて学びを広げるなど、継続的なスキル向上にも力を入れています。

メンバーは、傾聴講座や手作り講座などのイベント参加、前職を活かしたボランティア活動をしたという思いなどをきっかけに集まっています。今は約10名のメンバーで「安心して話せる場を地域に広げたい」という思いのもと、福祉施設や地域の場での交流を重ねています。

● EVENT：傾聴ボランティア養成講座 初級コース

梨～風では、利府に傾聴の心をひろげる目的で、発足以降1年おきに養成講座を開いています。

令和7年は、8月21日・8月28日・9月18日の計3日間で地域住民の方々とともに傾聴を学ぶ場として「傾聴ボランティア養成講座（初級コース）」を開催しました。

令和7年の講座では、傾聴の基本姿勢や相手の言葉に寄り添う聴き方を学ぶ講義に加え、実際の事例をもとにしたロールプレイングを実施しました。さらに講座では、認知症への理解を深める内容も取り入れ、参加者が学んだ内容を実生活でも活かせるような実践的な学びの場となりました。

延べ27人の参加者からは、人や場面によって聞き方を変える必要があること。傾聴の奥深さ・難しさに関する感想が多く寄せられました。特に傾聴の基本である“傾聴モード”についての感想が多く、また、傾聴について難しさと同時に大切さも感じ、講座で学んだことを身近な人に対しても実践していきたいとの感想もいただきました。

傾聴について、地域に新たな関心とつながりを生む機会となったと感じています。



● Vision：これからの活動について

コロナ禍の影響で活動の機会が減少した時期もありましたが、現在は再び地域とのつながりを広げようと取り組んでいます。今後は、グループホームやデイサービスなどへの定期的な訪問活動を再構築することに加え、長年の目標だった個人宅への傾聴訪問を実現するために地域の社会福祉協議会や民生委員の方々との連携をしていながら、地域住民のみなさまに活動を知ってもらう機会づくりにも力を入れていきたいと考えています。人と人との対話を通じて心が少し軽くなる、そんな時間を地域に広げていくことが、この団体の目指す姿です。

2 県協議会主催の研修会に参加しました！ ～みやぎ地域づくり団体協議会レポート～

みやぎ地域づくり団体協議会が主催する研修会が、令和8月2月2日に登米市内を会場として開催されました。今年度の研修会では、地域資源の活用をテーマに、地域の活動者による事例紹介や空き家を活用した新しい施設の視察などが行われました。当日は寒さの厳しい時期にもかかわらず多くの参加者が集まり、終始和やかな雰囲気の中で意見交換や学びが行われました。

開会にあたり、登米支部長から「寒い季節の開催で参加者数を心配していたが、これほど多くの方に足を運んでいただきうれしく思う。自然と歴史の魅力あふれる登米市の良さを、今日の研修を通じてぜひ実感してほしい」とあいさつがありました。参加者が地域の将来をともに考える場としてこの研修会を大切にしている気持ちが伝わる言葉でした。

最初の講演では、有限会社伊豆沼農産の佐藤裕美氏を講師に迎え、「伊豆沼農産の取組について」と題したお話を伺いました。

伊豆沼農産は豚肉加工を主力事業としつつ、惣菜やお菓子、アイスクリーム、どぶろくなど幅広い製品を手がけ、「農業を食業に変える」を理念に事業展開しています。食育・環境教育の取組にも注力しており、地元の小中学生を中心とした体験学習の受け入れに力を入れており、田植えや稲刈り、生きもの調査、草木染めなど、自然の中で学ぶ多様なプログラムを提供しています。最近では首都圏の学校からの要望もあり、教育旅行の受入やオンライン授業を行うこともあるとのことでした。



また同社では、「農村の産業化」をテーマとして誘客に関する取組にも注力しています。たくさんの方が登米に来てくれるよう、空き家を活用した宿泊施設づくり、地域住民が講師となる体験型プログラムの整備など地域資源を活用した取組を進めています。さらに同社は地域と地域外をつなぐコーディネーターとしての役割を担うために旅行サービス手配業の登録を受けています。誘客に関する取組を通して、少子高齢化が進んでいく農村地域では「地域の高齢者の知恵や経験」が都会と地方をつなぐ鍵になる、という考えに至ったという話が印象的で、同社が地域内外のつなぎ役となって地域を元気にするための取組に注力していることがわかりました。締めには、同社の取組を通して蓄積したノウハウを全国の農村地域に横展開することが目標であると語られ、地域づくりにおける好事例の横展開の重要性に共感を受けました。

講演後には、同社が運営する宿泊施設「伊豆沼レイクヒル天上」を佐藤氏の案内により視察しました。

同施設は伊豆沼近辺の高台に位置する一棟貸しの宿泊施設で、もともと空き家になっていた民家を改装してつくられています。キッチンや浴室など生活設備が整っており、1日1組限定でゆったりと過ごすことができる空間です。観光客の利用はもちろん、地元住民の方が活用する例もあるそうです。整備にあたっては消防設備の設置やトイレ改修など多くの課題があったものの、補助金も活用しながら丁寧に整備を進めたことが説明されました。



当職は「伊豆沼レイクヒル天上」の視察までの参加でし

たが、その後も登米市東和町へ移動し、米谷地区を舞台にイベント開催や企業支援などに取り組む一般

社団法人まちづくり Maiya no mirai 様による事例紹介、空き家を活用して整備した貸しスペースであり、株式会社まちおもい（Maiya no mirai の構成員）が管理する “モトハマヤ” の視察などプログラムは続きました。参加した方々からは、米谷地区の未来に向かう活動者の取組やその想いに触れ、地域資源を活用したまちづくりのヒントを得ることができたとの話を伺っています。

今回の研修会を通じて、登米地域にはまだまだ多くの可能性があり、地域住民や事業者が連携することで新たな魅力を生み出せることを実感しました。佐藤氏の言葉の中にあつた、「地域の人がつながり合い、外から来る人と関わることで地域が元気になる」という想いは、参加者一人ひとりに大きな気づきを与えてくれ、それぞれの普段の活動に還元できるような内容だったと感じました。

今後も支部として、地域の未来を考える機会を大切にしながら活動を続けていきたいと思えます。例年開催されている本研修会では、県内各地で地域の未来を考えて取組を行っている方々から話を聞くことができ、本レポートを読んでいただいた皆様、ぜひ次年度のご参加をお待ちしております。

3 事務局からのお知らせ

① 全国協議会助成事業の募集が開始されました

昨年に引き続き、令和8年度の全国協議会助成事業の募集が始まりました。

- ▶地域づくり団体活動支援事業
- ▶地域づくり団体クラウドファンディング活用支援事業

助成金を活用するためには、全国協議会への登録と、(一財)地域活性化センター賛助会員(年会費3,000円)への登録が必要となります。

※みやぎ地域づくり団体協議会および仙台支部は入会費・年会費等がかかりませんので、あくまで(一財)地域活性化センターの賛助会員費としてご留意ください。

※当助成事業は予算額に達し次第受付終了となります。活用を検討される場合は、構想段階でもかまいませんので、当事務局までお早めにご相談ください。

② その他のお知らせ

● 会員登録情報の変更について

今年度、会員情報の確認にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

引き続き、住所、電話番号、メールアドレス、ご担当者様の変更などがあつた場合には、所定の様式で変更の手続きを行う必要がありますので、ご協力お願いいたします。

● イベント情報の募集

仙台支部では、ネットワーク仙台の発行だけではなく、支部会員の皆様へ情報メールを送信しています。会員の皆様へお知らせしたいイベント情報がありましたら、ぜひ事務局までお寄せください！

4 編集後記

本情報誌「ネットワーク仙台」では、例年、みやぎ地域づくり団体協議会や仙台支部の取組、会員団体の活動などに関する紹介しております。今回は、今年度に仙台支部へご入会いただいた団体や助成金を活用した団体の取組、みやぎ地域づくり団体協議会主催の研修会について紹介させていただきました。今回ご紹介したことが、少しでも今後の活動のヒントやつながりのきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、記事作成にご協力をいただいた傾聴ボランティアサークル梨～風 様、特定非営利活動法人あんよ 様、有限会社伊豆沼農産 様に対し、この場を借りて御礼申し上げます。

(事務局 立花)

【発行】

みやぎ地域づくり団体協議会仙台支部事務局（宮城県仙台地方振興事務所地方振興部 内）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL:022-275-9114 FAX:022-275-0296

E-mail:sdsinbk@pref.miyagi.lg.jp

支部HP:<https://www.pref.miyagi.jp/site/kouiki-sendai/tiikidukurisendai29-7.html>